



横浜市立太尾小学校 学校だより

令和3年度7月号

令和3年6月30日発行

< 豊かに学び ともに未来をひらく 太尾の子 >

5年生の体験学習から考える

校長 館 雅之

6月25日（金）5年生の体験学習に私も一緒に行きました。当初、御殿場の宿泊を計画していましたが、「緊急事態宣言」や「まん延防止等重点措置」が発令されている時は、宿泊や県外移動は中止とするガイドラインをふまえ、実施可能な県内の日帰りです。再計画をいたしました。

この日は、バスで箱根に向かい、大涌谷から桃源台までロープウェイに乗り、桃源台から芦ノ湖の海賊船に乗船、再び、バスで森のふれあい館に行き昼食、その後、森の中のクイズラリー、館内での木の実のキーホルダーづくりという内容です。

学校からバスでスタートしてまもなく、予定していたロープウェイが動いていないことがわかりました。学年の先生はそれぞれの号車にいますので、集まって相談もできません。そのような中、互いにSNSで連絡をとりあい、ロープウェイの状況を聞いたり、ルート変更を決めたり、さらには、現地で待ち合わせていた写真屋さんにも連絡をしたりという動きが見られました。

ロープウェイの経路変更はあったものの、後の行程は予定通りに進んでいきました。私が感心したのは、引率していた先生の連絡の速さ、そして、情報共有、役割を積極的に行おうとしていた動きです。計画になかったことをその場で情報を集め、判断し、よりよい解決をしようとする姿が見られたことがすばらしいと思いました。そこには、子どもたちに経験させたいと考えていたことをすぐに無理だと思わずに、できることを考え、それを実行していった姿がありました。

結局、早雲山から大涌谷までのロープウェイは動いていましたので、それに変更になりましたが、そのロープウェイは大涌谷まで上っていくものでした。ロープウェイの行く先は雲で何も見えず、その中を進んで行きます。初めて体験する子もいたのでしょうか。「雲の中ってこんな風になっているんだ。」「何か寒くなってきたなあ。」などその時に感じたことを言葉にする子どももいました。

さらに、大涌谷に着くと、一面真っ白な光景が一気に雲が動き、谷の姿が見えると「一気に動くんだね。」「やっぱり火山のにおいがするねえ。」などの声も聞こえてきます。

さて、「体験学習」というと今まで、キャンプファイヤー、山登り、飯ごう炊飯、カヌーなどある種のイベントと言いましょうか、日常とは特別な体験をすることを考えていたように思います。しかし、今回のように場所や見るものなどは日常とは違いますが、それほど特別なイベントでなくても貴重な体験になることに気が付きました。

重要なことは、「一次情報」を大切にすることです。「一次情報」とは自分が直接体験して得た情報、あるいは自ら行った調査や実験で得た情報で、「自分の直接的体験による情報ではなく、「一次情報」を持つ他人から得ることのできた情報」である「二次情報」よりも貴重だと言われています。情報の差異化ができる、信頼度が高いということがその理由ですが、私はいかに子どもの頃に「一次情報」を大切にすることが、その人の成長に大きく影響するのではないかと考えています。

昨今、iPadを活用する子どもの姿を当たり前のように見る光景があります。（本校の取組はいずれご紹介させていただこうかと思えます。）情報の速さ、量、多様さは今までにないことでとても重要だと思う一方で、それらで得られる情報や知識は「二次情報」であることを十分踏まえる必要があると考えます。

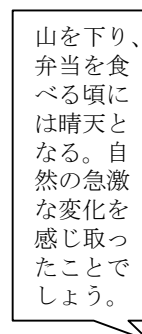
人には五感がありますが、視覚と聴覚に偏っていないでしょうか。AIはこれは得意です。一方、人には嗅覚、味覚、触覚という感覚があり、これを研ぎ澄ませていくことがこれからはさらに重要になってくると言えましょう。

今回の「体験活動」は、視覚、聴覚だけでなく、その他の三つの感覚（味覚は直接的なものではありませんが、新鮮な空気の中、小鳥のさえずりを聴きながら食べたお弁当の味は何かを感じているはずです。）を使う体験ができたというとらえ方をしてみました。

できるだけ本物と出会う、本物の体験をいかにするかということを経験を学校教育ですらに大切にしないでいけなあと新ためて感じた一日でした。



ロープウェイ乗り場。雲の動きは速く瞬間に目の前が白くなる。



山を下り、弁当を食べる頃には晴天となる。自然の急激な変化を感じ取ったことでしょう。



昼食後の活動前に担任は一人一人の検温を行う。担任は食べる時間があつたのだろうかと思ってしまう。